

### 3 めざすべき鎌倉市の緑

#### 3-1 緑の基本計画の基本理念

○鎌倉市緑の基本計画の基本理念は、これを継承します。

緑の基本計画では計画の基本理念を「山と海の自然と人・歴史が共生する鎌倉」と定めます。

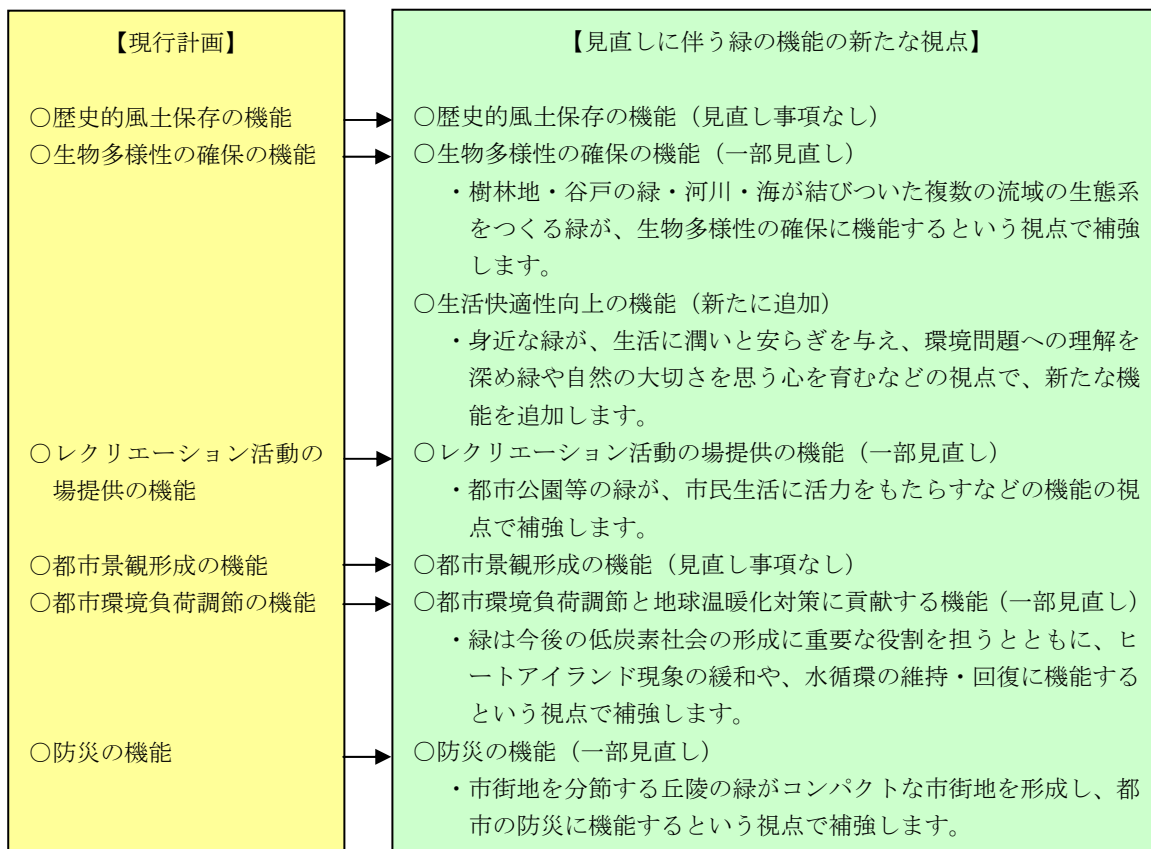
※ 計画の基本理念は、平成8年策定の緑の基本計画で定めたものです。

#### 3-2 緑の機能の新たな視点等

- 一般に、都市の緑が持つ機能には、新鮮な空気を提供し快適な環境を作り出す基本的な機能はもとより、生物多様性の確保、レクリエーション活動の場提供、都市景観形成、都市環境負荷調節、防災などがありますが、鎌倉市の場合は、これに「歴史的風土保存の機能」を加えることができます。
- 今日、地球温暖化問題の緩和と適応への取り組みが重要となり、都市の中での良質で豊かな緑の配置が社会的要請として求められています。
- 緑豊かな都市づくりをめざす鎌倉市は、今日の社会的要請も受け止めた緑の機能に対する考え方を明らかにするとともに、緑の基本計画が示す緑の将来都市像を市民等と行政が共有し、その実現をめざした着実な歩み続けるため、新たに「生活快適性向上の機能」を加えます。

##### 3-2-1 生活快適性向上の視点

###### ■緑の機能の見直し



- 生活快適性向上の機能（暮らしを支え豊かにする緑）
  - ・住宅の庭や日常圏の身近な緑は、生活に潤いと安らぎを与えるとともに、緑に包まれた環境での生活を通じて、環境問題への理解を高め、緑や自然の大切さを思う心を育みます。
  - ・市街地内の緑は、緑の連続性を高め、都市の骨格をなす緑地の機能を向上させます。
  - ・鎌倉市では、谷戸の緑や丘陵樹林地に縁取られた緑豊かな住宅地や、開放的な海浜景観と融合する緑豊かな住宅地が広く形成されてきました。
  - ・多くの市民は緑を愛し、地域共有の財産と受け止めて、緑の存在なしに鎌倉市での素敵な暮らしはないという価値観を共有しています。
  - ・鎌倉市の緑は、市民の日々の暮らしの豊かさを支え、生活快適性向上に機能しています。

### 3-2-2 その他

○新たに追加する「生活快適性向上の機能」以外の鎌倉市の緑の機能で、補強すべき内容は次のとおりです。

#### (1) 生物多様性確保の機能

- 鎌倉市には、まとまりのある丘陵の樹林地に加えて、複数の河川流域で構成される樹林地・谷戸の緑・河川・海が結びついた流域の生態系が残されており、こうした変化のある緑の存在が豊かな生物相を育み、生物多様性の確保に機能しています。

#### (2) レクリエーション活動の場提供の機能

- 都市公園などの緑は、散策・遊び・スポーツ・交流自然とのふれあいなどを楽しむ市民のレクリエーション活動の場となり、市民生活に活力をもたらしています。
- 多くの市民や来訪者に利用されている都市公園や遊歩道など、鎌倉市の緑は、このような形で利用者の健康の維持・増進や潤い・安らぎを与え、レクリエーション活動の場提供に機能しています。

#### (3) 都市環境負荷調節と地球温暖化対策に貢献する機能

- 今日、地球温暖化問題の緩和と適応への取り組みが重要となり、都市の中での良質で豊かな緑の配置が社会的要請として求められています。
- 緑は、地球温暖化の主要因である温室効果ガスを吸収・固定する働きがあり、今後の低炭素社会の形成に重要な役割を担うとともに、都市活動によって生じているヒートアイランド現象を緩和する機能や、大地の水循環を維持・回復させる機能を有しており、都市の環境負荷調節に寄与しています。
- 京都議定書では、都市緑化等による温室効果ガス吸収量はLULUCF-GPG（土地利用、土地利用変化及び林業に関する良好手法指針）の算定方法によることとされており、樹木の二酸化炭素吸収量は樹種や生長度で異なりますが、一例として樹高10mの高木では85 kg／本・年という数値が示されています。<sup>※1</sup>
- 京都議定書では、温室効果ガス吸収源の対象となる森林は「1990年以降に人為的活動が行われた森林」及び「法令等に基づいて保護・保全されている森林」とされており、森林の炭素吸収量については、一例として40年生天然林広葉樹の場合1.0 t／ha・年という数値が示されています。<sup>※2</sup>
- 質の高い市街地の緑化や緑地の整備により、緑による二酸化炭素の吸収・固定が促進され、ヒートアイランド現象が緩和されます。
- 鎌倉市は、市域面積の約4割が緑地で占められ、その多くが保全されているほか、相模湾の海に面しており、この緑と海の存在が、都市活動によって生じる様々な環境負荷の調節に機能するとともに、地球温暖化対策に貢献しています。

#### (4) 防災の機能

- 鎌倉市では、市街地を分節する丘陵の緑により、コンパクトな市街地が形成され、都市公園やオープンスペースが広域避難場所やミニ防災拠点に指定されています。

※1 「日造協が考える緑化樹木のCO2吸収のめやす」（社団法人日本造園建設業協会）によるデータです。

※2 独立行政法人 森林総合研究所による試算の数値です。

### 3-3 めざすべき緑の考え方

- 「緑のネットワーク」と「緑の質の向上」の視点に立ち、緑の機能を踏まえた「めざすべき緑の考え方」により、計画の基本理念を具体的な計画とその実現に結び付けていくことが重要です。

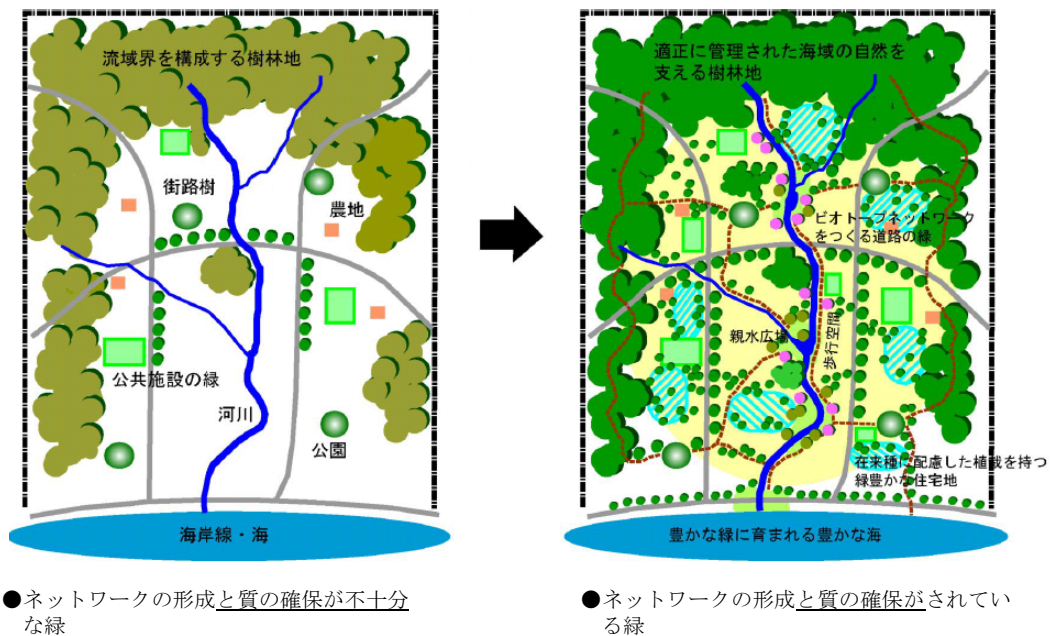
#### 3-3-1 緑のネットワークの視点

- 都市の緑は、一定のまとまりや連続性を持ち周辺の緑とつながりを持つことでより機能が高まります。
- 緑の機能を高めるためには、都市レベルの骨格的な緑から身近な生活空間の緑までの連続性を高め、都市内に緑のネットワークが形成されていることが効果的です。
- 鎌倉市の自然環境の特徴の一つでもある、谷戸地形が作り出す小流域（雨水の集水域）単位の小さな流れや既存樹林・住宅地の植栽地などが結びついて形成される緑のネットワークが重要です。

#### 3-3-2 質の向上の視点

- 都市の緑がそれぞれの役割に応じた存在価値・利用価値を発揮するためには、求められる機能に対応できる「緑の質」の高さが必要です。
- 都市の緑は、単独の機能により存在するものではなく、生活快適性向上・都市景観形成・都市環境負荷調節など、多くの重複する機能を持っています。
- 緑のネットワーク形成における機能別の緑の保全・整備・創造の方針を定めるにあたり、「求められる機能に対応できる緑の質の確保」の視点に立った考え方が必要です。

#### ■緑のネットワークの考え方



#### 3-3-3 緑の配置の考え方

- 緑のネットワークを形成して、その機能を効果的に発揮させるために、「歴史文化を守る緑」、「生き物を育む緑」、「暮らしを支え豊かにする緑」、「交流とふれあいを広げる緑」、「美しい景観をつくる緑」、「環境負荷を和らげる緑」、「安全を高める緑」の機能別の緑の配置の方針を定めます。
- 機能別の緑の配置の方針を機能相互に調整し、緑のネットワークの視点と緑の質の向上の視点を踏まえて、「求められる機能に対応できる緑の質の確保」に結びつく方針を定めて、鎌倉市の緑の将来都市像と総合的な緑の配置の方針を定めます。

■鎌倉市の緑のネットワークのイメージ（神戸川、二又川流域）



■公共施設の緑  
市街地での緑のネットワーク形成の核となります。



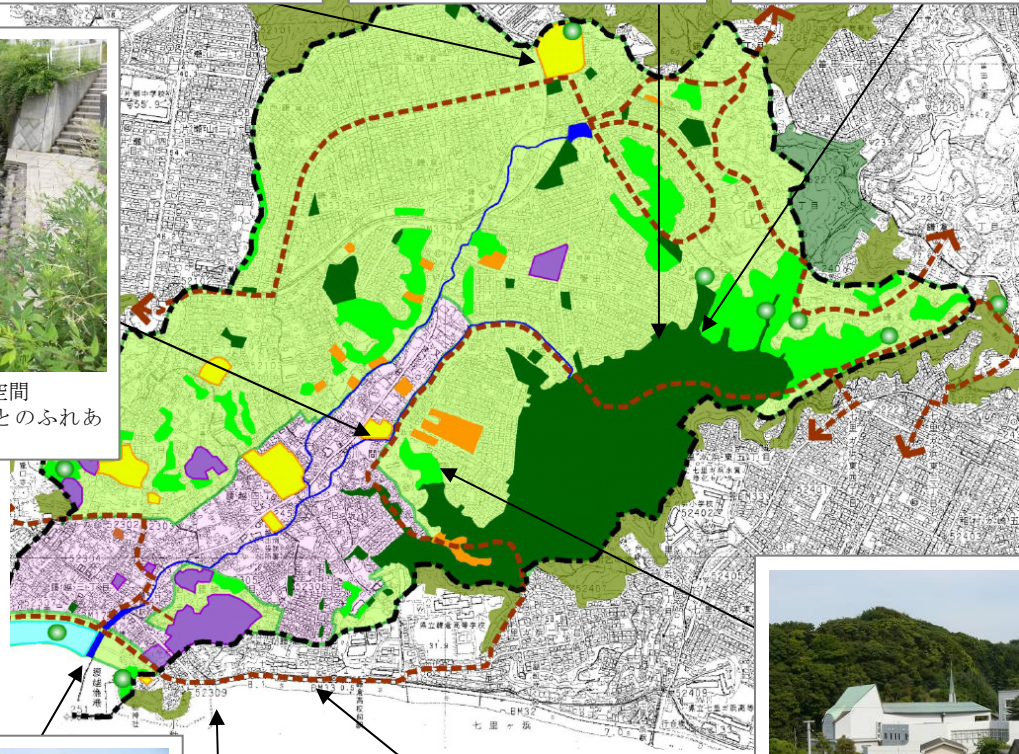
■都市公園の整備  
緑がつなぎ手となり、市民との連携を育みます。



■源流の緑  
豊かな森が水を育み、海を育み、人を育みます。



■河川の親水空間  
身近な自然とのふれあいの場です。



■緑地のネットワーク  
緑の資源（建築物）と緑地が地域の存在感を高めます。



■緑がつながりわい  
沿岸漁業の基地は、地産地消の源です。



■開放的な海浜空間  
貴重な自然とのふれあいと交流の場です。



■海域と海辺の緑  
豊かな森が豊かな海を育みます。

風致地区内市街地	海浜
風致地区外市街地	周辺部の緑
社寺境内地等	緑の資源
農地	河川
樹林地	歩くルートのネットワーク
都市公園	流域界
公共施設	

■めざすべき緑の考え方

